

名古屋副市長「解任劇」

写真は朝日新聞 5 月 24 日朝刊。河村たかし名古屋市長の市政運営に対し、退任する市幹部の、批判ともとれる発言が相次いでいる。3 人制の副市長は、「市長の解任劇」（市議）で 24 日から 1 人になり、市政運営は厳しい局面を迎えている。23 日の市幹部会。任期を 1 年残して同日で解職された岩城正光副市長は、市長を前に、あいさつに立った。「行政は人材の砦。機械ではない。人材育成あってこそ市民サービスは実現できる」と。



それにしても、今回の副市長「解任劇」は納得できない。腹が立ったので、どうせ掲載されないと思ったが、中日新聞「発言」欄に 4 月 27 日投稿した。案の定、掲載されなかったが、突然の副市長「くび」にたいして、きちんと「発言」しておいて良かった。せめてレポートで「発言」を紹介しておきたい。このところ朝日「声」を含めて、投稿掲載「連敗」が続く。でも、まだ諦めない。

なぜいま副市長交代なのか

本紙 25 日夕刊 1 面「名古屋副市長 2 人交代へ」を読み、正直驚いた。「河村市長が異例人事」とあるように、唐突な感じがした。

2 人のうち岩城副市長は、子ども虐待などで活躍している弁護士として、河村市長が市役所に招いたはずだ。それなのに、なぜ。市長の納得のいく説明を求めたい。中学生虐待死事件など、山積する課題はまだ多い。

今月からは障害者差別解消法が施行され、副市長は市政の中でも中心的に活動されていた。その副市長を任期途中で、なぜ「更迭」するのか、理解に苦しむ。名古屋市はこのところ、名古屋城問題をはじめ、不可解なことが多い。今回のことを含め、きちんと市民にわかりやすく説明してもらいたい。

退任する市幹部の河村市長を批判する気持ちも、私なりに理解できる。「庶民」感覚で市政を運営するといわれる河村市長。この間の市政運営をふり返ると、河村市政の問題点がクローズアップされる。これまでは、なんとか市幹部、市職員の奮闘もあって、カバーされてきたが。「興味本位」の場あたりの市長の方針により、市政が混乱してきた感じだ。名古屋市政の姿勢、とりわけ河村市長の姿勢こそが問われる。

(2016 年 5 月 26 日)